

身近のできごと

田中洋子

平成14年から県の共生モデル事業の地域指定を受け松本城公園の猫を管理してきました。それまでは6人の仲間が猫を保護しては、新しい飼い主を捜して譲渡し、お腹の大きな猫は不妊手術をして増やさないようにと努力しても、後を絶たない捨て猫と出産で疲れ果てていました。人慣れしていない猫は周辺の住宅地に散らばり、知らない間に出産し増えてしまいます。また、猫好きな人もいて、餌だけやって手術しないで増やしている人もいました。ねこの会の事業に参加して、5年間に雌と雄あわせて67頭も不妊手術することができました。個人の力では到底できないことで、行政の協力があつたからこそできたことだと感謝しています。これに併せて東は裏町、南は縄手、西は西堀までお城の猫が元で拡大していったらと思うられるところまで不妊手術をしました。後は捨て猫さえなければ減るだけです。公園の猫は捨て猫から始まりました。その事が止まらない限り問題の解決になりません。

私たちの住む身近にはこんな素晴らしい公園があり誇りに思うのに、何もやらずに捨て猫の事も、大きなケヤキの木の葉が落ちる事も文句や苦情だけ言う人がいます。お城の周りの立派なケヤキの木は私たちの産まれる何十年も前からあって、景観に花を添えてきました。お城に来る人は大木を見上げては歓声を上げ、根本でくつろぐ猫を見てはのどかだと思いを細めます。私たちは公園の猫たちの不妊手術をすることで、この素晴らしい公園の管理に協力していると自負しています。



決め手は心

松本市 S子

S子「まあ、A子さん、顔色も良くお元気で。でもちょっと腰が曲がったかな。今日はネコちゃんのごはん持ってきたからね。」

A子「私のごはんはどうなっているかね。」

S子「ごはんはこの後すぐくるから待っててね。」

A子「そうかね。ネコはこんなに沢山貰っていいね。」

A子さんが外にいる時は、エサやりボランティアは毎回こんな会話をします。

数年前は、「こらっ、シッシッ！」と棒で追われ、水をかけられて逃げ回っていた子ネコたちも、今は母親ネコより大きくなって元気よく遊んでいます。A子さんが外にいる時は足にまつわりついたり、ひっくり返ってお腹をみせたり、なんともいえずほほえましい光景です。こんな幸せな生き方の出来るネコでいられるのも、《ねこの会》がご近所にご挨拶をし、地域猫のことを説明して理解をいただき、地域猫の指定をして下さったからです。周囲の方も気持ちよく受け入れて下さり、エサやりボランティアとしてもとても有難く感謝しています。

A子さんは、認知症のため身の回りのことが一人ではできなくなり、私たちがお手伝いに出向くようになって何年にもなりますが、その頃とほとんど変わらず、反って若くなった気さえします。ネコを見て笑うようになり、きっとネコちゃんと会話をして癒されているのかも知れません。

私たちネコの管理ボランティアにとっても、ご近所の方との会話がスムーズになり、「ネコがいたずらして困ったらすぐ連絡下さいネ。」とお話すると、「ネコかわいいじゃん。」と言っていたホッとしています。

ネコを地域で育てていくことは難しいと思いますが、ネコを通して新しい出会いもあり、人の心一つだと思っています。



平成18年度 「ねこの会」 会計報告 (単位:円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	¥ 24,607	事務費	¥ 68,610
募金箱	¥ 14,190	コピー代、通信費	
寄付金・利子	¥ 199,719	備品費	¥ 5,294
小計	¥ 238,516	捕獲檻、洗濯ネット	
		運搬交通費	¥ 54,669
		運送料	
		接待交際費	¥ 24,600
		病院・展示場・講師謝礼	
		活動費	¥ 48,684
		新聞等印刷	
		雑費	¥ 19,981
		ピアス、プラケース等	
		小計	¥ 221,838

収入 (238,516) - 支出 (221,838) = (残高) ¥ 16,678

※上記金額以外に中島塗装店様より毎月5000円相当の餌を寄付にいただいております。

